

「観念浄化ワーク」を併用した症例

1、患者 女性 30代 主訴 不眠症 Hさん

平成 19 年 2 月来院

初診にて、不眠症とのことでお話を伺いました。

Hさんには随伴する症状として、肩こり、腰痛、頭痛、月経不順の他精神的に重く、暗いほうへと考えてしまう、なんの楽しみも見出せない 生きているのが楽しくないなど、『今』に対する不安感と『過去』に対する否定的な感情をぼつり、ぼつりとお話していただきました。

鍼灸治療では心身一如といって、体と心をひとつのものとして診察、治療を進めていきます。

Hさんの場合も、体に出ている症状と、脈の状態、精神的な状態を合わせて治療していくことにより

不眠や随伴する症状の緩和を目指していく治療を行いつつ

『観念浄化ワーク』もあわせて行っていくことにしました。

何故、観念浄化ワークが必要なのかというと

患者さんの傾向として、 大体において分けると 『体調が悪く、体力がなくて元気が出ないタイプ』と『元気になる気持ちができず、体調が悪くなるタイプ』になるのですが Hさんの場合はあきらかに後者でした。

もちろん 1 回目には軽く、全体調整の治療を行い、体の状態をある程度把握した後 2 回目、3 回目から少しずつ信頼関係を得たうえで浄化ワークを導入して行きました。

体の治療と浄化ワークを同時に行うことで、この方に関してよかったなと感じる点は心でブロックをしていた方ほど、好転反応的な感情の揺れや体に出る症状をある程度緩和できたことでしょうか。

特に、このHさんは自営でお仕事をされているので、週に1度通いながら

そのたびに観念浄化の宿題を進め、体の状況も改善に向かい

苦しい状態も多々ありましたが

ちょうどよいタイミングで来院され、物質化した観念をとりつつ

(頭痛というカタチで出ていました)

開放に向かわれました。

最終的に、『他の人が信じられない』という観念が本当は『自分自身が信じられない』観念が先にあったんだという事に気づき、浄化した後から体の調子も改善し、不眠の症状もなくなりました。現在は体調管理という名目で継続して通われていますが

何より良かったのは、観念になりそうな感情や出来事をその場で抜くということをご自分で実感され、人生が楽しくなったとの事です。

毎日が楽しくなった。
本当にやりたい事に気づいた。
家族との確執が変化した。

子供のころから抱えていた劣等感や、不安感が綺麗になくなり『今』をととても楽しまれているようです。

今ある症状には、意味があり
ただ、症状の改善のみに固執するより、体が発する症状の意味をとらえて、症状を発する原因となる観念を取り去るだけでこんなに人も心も体も楽になるのかと実感した症例でした。

その他症例 として不妊症・子供の不登校・胃の痛み、背部痛 胆嚢癌などの症状でもって治療に通われている方に実践していただいて症状の改善とともに、人生に変容をもたらすものとして喜ばれています。

鍼灸師 阿波連麻美